

学校評議員会の実施報告書

ホームページへの掲載	
済・未	12月15日掲載

学校名 岐阜県立飛騨特別支援学校

学校長 松井 みどり

所在地 高山市山田町 8 3 1 - 4 4 電話 0577-34-7122

1 会議の名称

平成 2 9 年度 第 2 回学校評議員会

2 会議の構成

<学校評議員>

犬石 美恵子	地域住民代表
京極 範子	地域住民代表 (欠席)
下田 進市	P T A 会長
杉本 晋治	ひだ障がい者総合支援センターぶりずむ センター長
山木 隆平	(株) ふるさと清見 2 1 代表取締役

<学校職員>

松井みどり	校長
北村 浩好	事務部長
渡辺 雅信	教頭
牧野 直美	小学部主事
井尻 敏幸	中学部主事
奥田 寛	高等部主事
太田 浩司	進路指導主事

3 会議の目的

学校教育が地域住民の信頼に応え、家庭や地域と連携を図りながら充実した教育活動を展開するため、学校外の有識者等の参加を得て、校長が行う学校運営に関し幅広く意見を聞き、必要に応じて助言を求める。

4 会議の開催

平成 2 9 年 1 2 月 8 日 (金) 9 時 1 5 分 ~ 1 1 時 0 0 分

飛驒特別支援学校 会議室及び体育館
学校評議員 4名と学校職員 7名が出席

5 会議の概要

(1) 校長挨拶

- ・外部から見た学校の活性化や分かりやすい情報発信の仕方、学校への疑問点などさまざまなお意見をいただきたい。

(2) 評議 1

①本校の進路支援について（説明：進路指導主事 太田浩司）

- ・高等部の生徒を中心に、進路先の紹介、進路先を決定するまでの様々な取り組み進路についての学習活動、地域社会と連携した取り組みの様子などを説明。

②「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」について

- ・アンケートに基づき、結果を説明
- ・各項目に対しておおむね好評価を得ているが、課題として、取り組みの成果が「よくわからない」とする意見も見られる。
分かりやすい情報発信の方法を検討していく必要がある。

③学校ホームページ、学校だよりから

- ・情報発信の例として、学校ホームページ及び学校だより（紙面）について日頃の取り組みを中心に説明。

(3) 授業参観

- ・高等部「やるやるマーケット」（作業学習製品の販売会）及び中学部「わくわくプレゼント会」（作業学習製品の配布会）の様子を参観

(4) 評議 2

①授業参観及び進路支援の取り組み、アンケート結果についての御意見・御感想

意見 1：ホームページを閲覧したが、寄付を求める趣旨のメッセージが頻繁に表示された。学校として寄付を求めることはあるのか。

意見 2：「飛驒特別支援学校」と名称が類似した他の機関の可能性もある。

学校：学校として寄付を求めることはない。

学校でホームページを検証する限りでは、特に寄付を求めるような表示は確認していない。インターネット上では、詐欺まがいのことも起こりうるので今後も十分注意していきたい。

意見 3：〈アンケートについて〉

学校では説明のように、よい取り組みが多く行われている。「わからない」と評価されることはもったいない。どのようにすれば周知できるか検討してほしい。

<やるやるマーケットについて>

近隣の方が多く来校されていることや機会あるごとに来校されていることが分かった。地域の風物詩になってきているようだ。地域に根差した取り組みであることが分かる。

意見4：親子で話をしたときに、本校に就学したことで他校の生徒と接する機会があまりないため、不安に思っていると言っていた。今回のやるやるマーケットに近隣の高等学校が参加していることは評価できる。

卒業に向けて自動車免許を取得しようと考えているが、本校には自由登校の規定がないため取得しにくさがあるように思われる。

学校：就職に向けて必要なことであると考えてるので対応を検討する。

意見5：高等部は、地域社会へ出て販売を行っているが、朝市での接客の様子を見ると、自然に対応できていると感じた。

ひだっ子祭（学校祭）には大変感動した。ステージ上での演技や大きな声での台詞の言い回しに努力の跡を感じる。

学校周辺で会ったとき、「あいさつ」をしてくれないことが残念である。恥ずかしいのかもしれないが、自然にあいさつできると、近隣の方々の見守りもしやすくなる。

地域の中学校から本校に入学した生徒がいる。登校を渋る傾向にあったが、本校入学後は毎日笑顔で登校し、生徒会活動に積極的に参加しているという話を聞いた。本校の居心地のよさを感じる。

意見6：評議員を受けたことで、運動会やひだっ子祭（学校祭）を参観する機会を得られた。一般の学校に比べ少人数での指導を受けていることが成果につながっていると感じた。また、障がいの状態に関わらず生徒たちが役割をもって活動している姿から、すべての生徒に経験を積ませていることがよくわかる。

行事のとき、転勤された教師と思われるが、生徒が寄り添い話をしている姿を見た。生徒と教師の間の信頼関係が感じられた。

学校：福祉支援との連携に関してご意見をいただきたい。

意見7：障がい者総合支援センターでは、雇用開拓員による雇用（企業）の開拓も行っている。この点については、進路指導主事と連携をとっている。高山市内の企業の動向について、学校にも情報提供を行っている。生徒の情報を共有することで、よりよい就労支援につながると考える。

②高等部作業学習の製品について

- ・各作業班から新製品の申し出はなかった。

6 会議のまとめ

- ・地域でのあいさつや関係機関との連携を深めていきたい。また、保護者への情報発信について改善を行っていきたい。